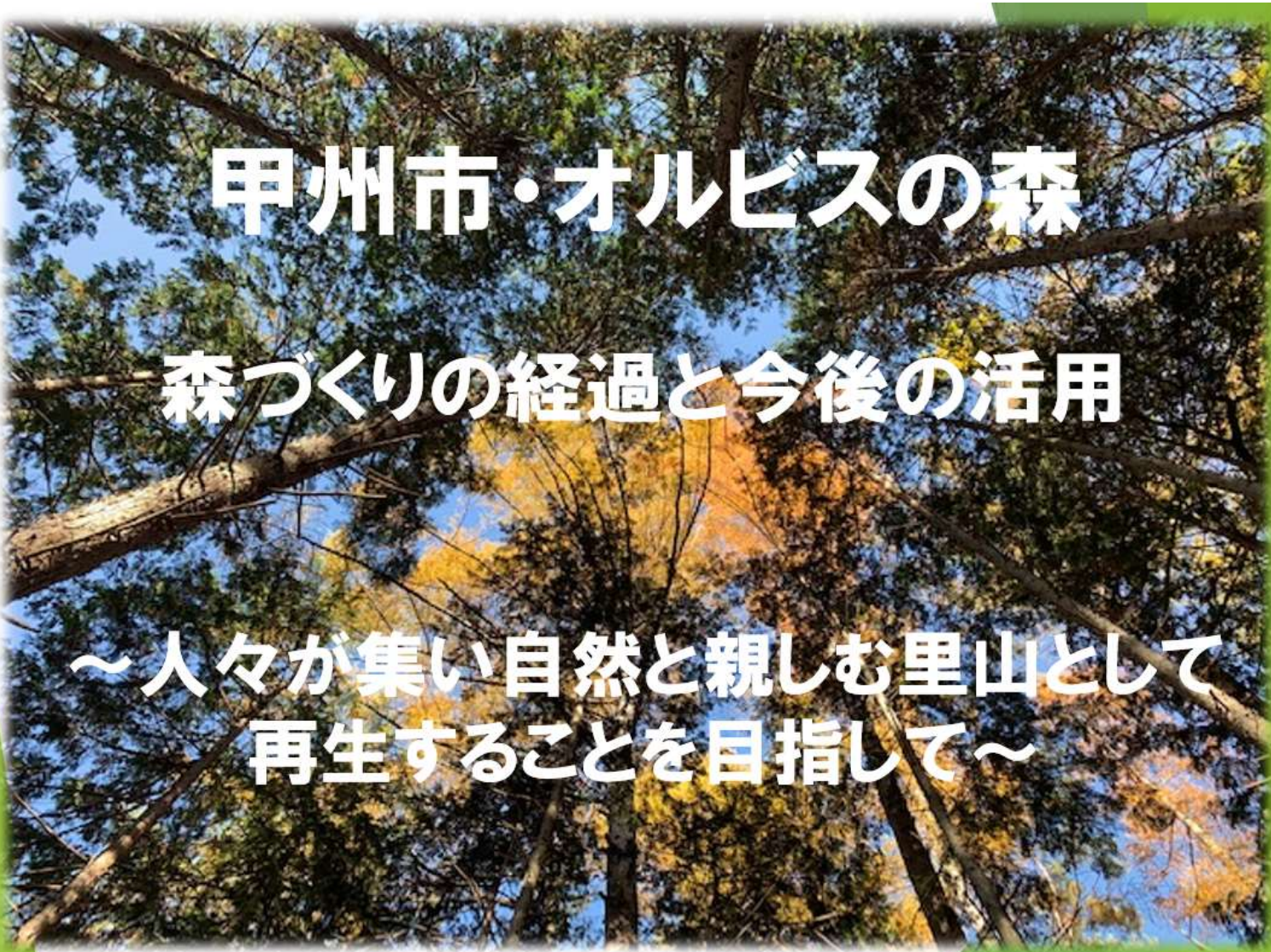




# 甲州市・オルビスの森

## 森づくりの経過と今後の活用

～人々が集い自然と親しむ里山として  
再生することを目指して～

【1ページ】

甲州市・オルビスの森 森づくりの過程と今後の活用について

～人々が集い自然と親しむ里山として再生することを目指して～

# 甲州市の概要

■ 人口 31,363人

(令和元年10月1日現在)

■ 面積 264.11km<sup>2</sup>

■ 人口密度119人/km<sup>2</sup>

面積の約8割が森林  
果樹栽培が全国的に有名



## 【2ページ】

甲州市は平成17年11月に塩山市・勝沼町・大和村の合併で誕生しました。人口は3万1千人。面積の約8割が森林です。

今回の「甲州市・オルビスの森」はこのうち、旧塩山市の市街地の北東の里山に位置します。



甲武信ユネスコパーク登録エリア図



### 【3ページ】

甲州市は甲府盆地の北東部に位置し、秩父多摩甲斐国立公園の中の大菩薩山系の森林とそこを源とする、富士川上流の笛吹川水系が広がっています。

今年6月には、「甲武信ユネスコエコパーク」として認定され、今後の利活用への可能性も秘めています。



#### 【4ページ】

甲州市には、豊かな自然環境、内陸性の気候が育んだ果樹園、雄大な山岳地帯など、さまざまな景観とそこからの眺望をもち、さらにブドウ・モモやワインなどの日本有数の特産品、武田信玄公に関するものをはじめとした歴史的文化資産を有し、これらは貴重な地域資源となっています。

また、温泉や物販施設、レクリエーション施設、伝統的な祭りなど、特色のある観光・交流資源を数多く有しており、こうした場所をめぐるウォーキングや体験型観光などの新しい動きもあります。



## 『甲州市・オルビスの森』経緯

- 2006年12月 ゴルフ場計画用地100haを甲州市に寄付
- 2007年 7月 山梨県立撃場移転先として整備計画の申し入れ
- 2009年 6月 甲州市里山創造推進協議会発足
- 2010年 9月 射撃場移転計画を凍結
- 2011年 1月 オルビス（株）・甲州市・（公財）オイスカ・  
甲州市里山創造推進協議会による「森林整備協定書」  
締結 『甲州市・オルビスの森』命名
- 2012年 4月 オルビス社員ボランティア等の植林・間伐体験開始
- 2014年 山梨県造林業事業費補助を受け4年間で約21ha間伐
- 2017年 2月 国産ワイン用ぶどう圃場整備
- 2018年11月 遊歩道整備

### Member

オルビス（株）・甲州市・（公財）オイスカ・NPO法人木netやまなし・メルシャン（株）  
山梨県峡東林務環境事務所・富士森林施業技術研究所・上小田原地区区長

### Observer

山梨県森林協会・山梨県造園建設業協会

### 【5ページ】

甲州市・オルビスの森の経緯です。  
13年前の2006年、不動産業者が、  
ゴルフ場用地として所有していた民有  
林100haを、事業取りやめにより、甲  
州市に寄付したことから始まりました。

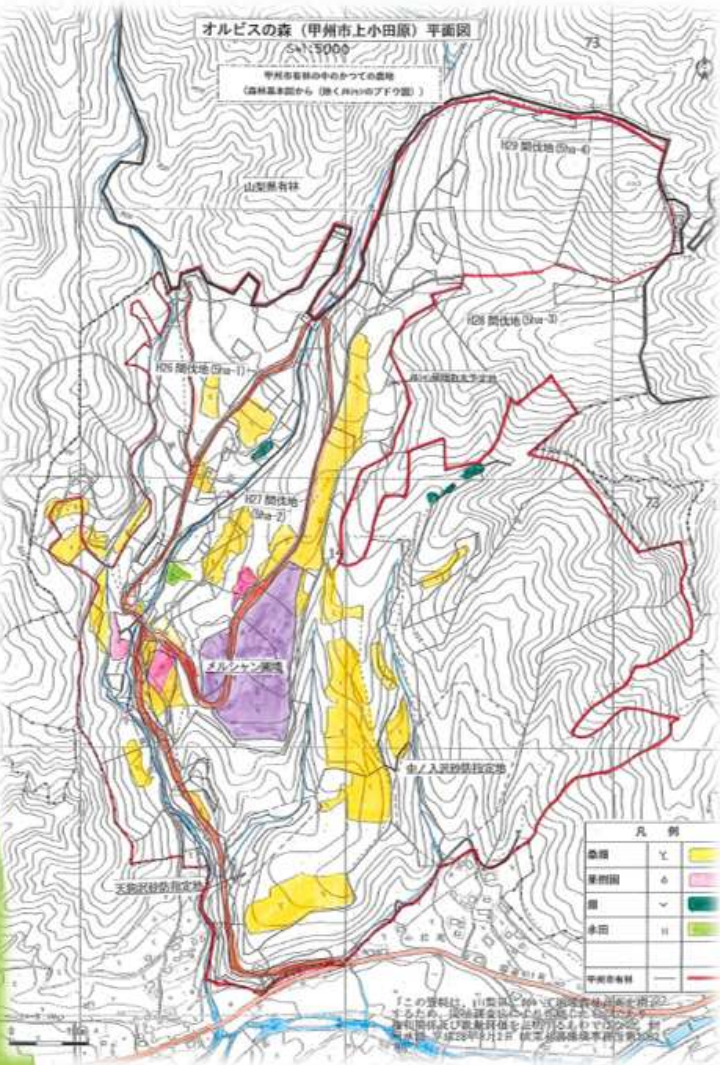
翌年、山梨県より県立射撃場の移転  
先として市有林の中に整備計画の申し  
入れがありました。

2009年6月に、この射撃場の計画も  
動き出したこともあり、この寄付された  
森林を市有林として有効に管理・利用  
していくため、甲州市、地元市民、学識  
経験者、県行政機関、林業事業体、そ  
の他関係団体・企業で構成する「甲州  
市里山創造推進協議会」を立ち上げま  
した。

しかし、翌2010年、県立射撃場移転  
計画が凍結となったため、翌年の201  
1年に山梨県内に数多くの企業の森を  
誘致してきた公益財団法人オイスカの  
仲介により、オルビス株式会社、甲州  
市里山創造推進協議会、甲州市の4  
者による「森林整備協定書」を締結し、  
「甲州市・オルビスの森」と命名、長  
年、手が入っていなかったこの森を  
「人々が集い自然と親しむ里山として  
再生すること」を目標とした活動が始ま  
りました。



# かつての農地



# 森林の分布図



【6ページ】  
 かつて、この地域は江戸時代からの養蚕が盛んで、この里山にも桑畑を中心とする農地が広く分布していました。左の地図の赤線で囲まれたエリアが「甲州市・オルビスの森」です。このうち、黄色の部分がかつての桑畑で、このエリアの緩傾斜地に広がっていました。紫色も現在、メルシャンのぶどう園ですが、ここも果樹園などの農地でした。左側の黄緑部分には水田があり、何枚かの棚田がありました。

右の図は森林の分布状況です。緑色部分がスギ、ヒノキなどの針葉樹林です。





【7ページ】

下流から見た「オルビスの森」です。森林簿上はヒノキ・アカマツなどの針葉樹林が4割、コナラ・クヌギを始めとした広葉樹林が5割です。

しかし、実際には、広葉樹が混交し天然林化したアカマツ林や、かつての農地であった桑畑が森林化した場所などを加えると7割が広葉樹林、いわゆる里山特融の雑木林となっています。

研究者からも、県内での、この規模の雑木林は貴重である、との評価も頂いております。





【8ページ】

ドローンによる写真です。  
オルビスの森の南端と下流に広がる  
里の様子です。昔からの集落が笛吹  
川支流沿いに点在しています。森のこ  
の台地部分は、かつては桑畑でした  
が、養蚕が衰え、放置された桑の木が  
巨木化し、コナラなどが混在した雑木  
林となっています。





鬱閉したヒノキ林



林床は表土が流出



2014年 間伐箇所



#### 【9ページ】

この森の人工林は、所有者の森林への関心が薄れたこと、更にゴルフ場用地として不動産業者に渡ったことにより、手入れが行き届かなくなり、過密となった森林は放置され、荒廃森林になっていました。

ヒノキを主体とする人工林は、ほぼ全域で過密化が進み、昼間でも薄暗いうっそうとし、下草は生えず表土が流出し、根がむき出しになったり、林内に浸食地も発生し、災害の発生や山火事などが危惧されるところでした。

2011年、「森林整備協定書」が結ばれ、2012年4月には、『甲州市・オルビスの森』を10年計画で里山として再生するプロジェクトがスタートしました。

オルビスの社員らによるボランティアによる間伐や植栽、また、2014年からは、甲州市が山梨県造林業事業費補助も受け、4年間で約21haの間伐を行ってきました。





#### 【10ページ】

植栽は、広葉樹を中心に、ヒノキ・クリ・クヌギ・コナラ・ヤマザクラ・モミジを植えてきました。

ボランティアの皆さんが植えた樹木の育成状況を、毎年、モニタリング調査をし、協議会の総会で報告し、次年度計画に活かしています。

例えば、植えた木のシカの食害の調査結果から、ネットをより高く設置したり、辛味のカプサイシンを練りこんだ素材のネットを試験的に設置するなど、植林、間伐を行なっただけで終わりではなく、追跡調査により、森林整備に反映させています。





サクラの森 植樹



キッズプログラム



間伐 体験



森の積み木広場 体験

【11ページ】

サクラの森にサクラを植えています。  
活動にはボランティアのお子さんも多く  
参加し、森づくりを楽しみました。

時には、オイスカなどの協力による森  
の体験や「森の積み木広場」などの、  
子供向けプログラムを実施していま  
す。





サクラの森 チカラシバ伐根



サクラ大苗の植樹



【12ページ】

左上の写真は先程のサクラの森です。サクラが良く育ちませんでした。原因は、イネ科の植物チカラシバが茂っていて新しい根が生えにくかったとのことです。

里山協議会のオブザーバーである造園建設業協会の協力により、2016年に重機を使い、チカラシバを根っこから除去し、造園の手法によりサクラや花桃の大苗を植えました。





サクラの森



春の展望台よりサクラの森



【13ページ】

下の2枚は、現在のサクラの森の様子です。2mの苗が4m以上に育ち、春にはサクラの花や花桃がしっかり咲いています。

今後は、サクラの森を上から眺めることができる場所に、春の展望台を作る予定です。



## オルビス（株） エントランス・ロビー



## J R 中央線 塩山駅



### 【14ページ】

ヒノキの間伐材で作製したイスとベンチです。オルビス本社のエントランスロビーや、JR中央線塩山駅の自由通路に置かれています。木材利用の試行です。



## 整備の基本理念

### 「人々が集い自然と親しむ里山として再生すること」

～ オルビスの企業理念の体験の場として  
活用できる森の実現を目指して ～

- ① 「Healing by science」による癒しのブランド化
- ② 多様性を受け止めるには「感受性の全開」をすることが必要
- ③ 「Healing by science」と「感受性の全開」を結びつける森

#### 【15ページ】

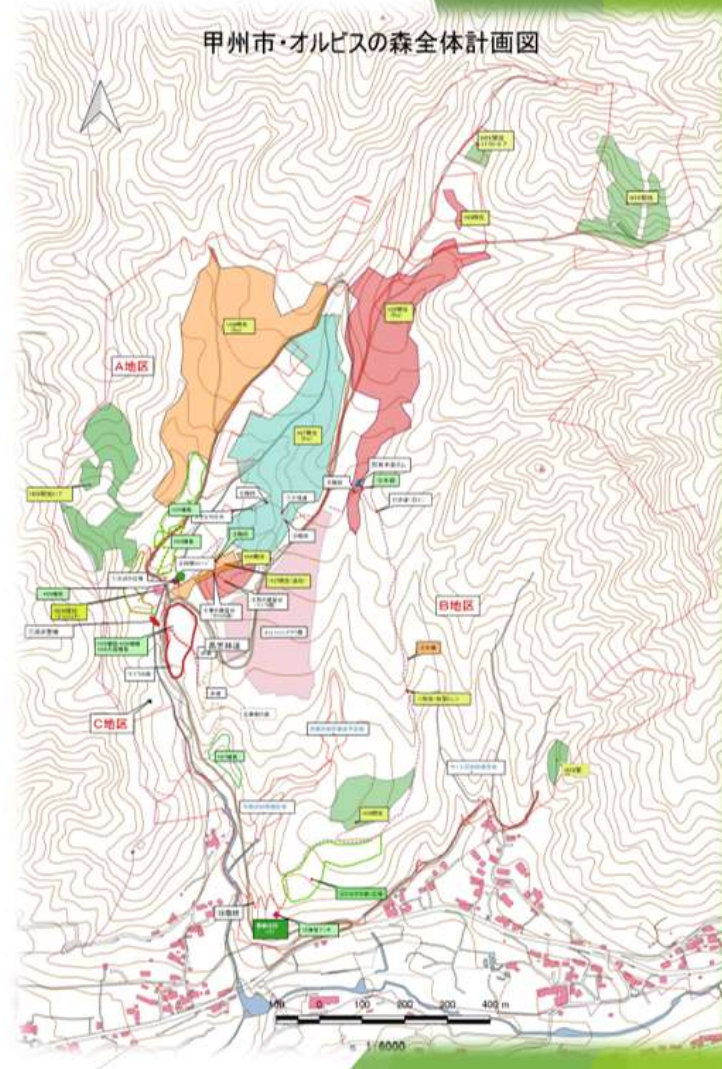
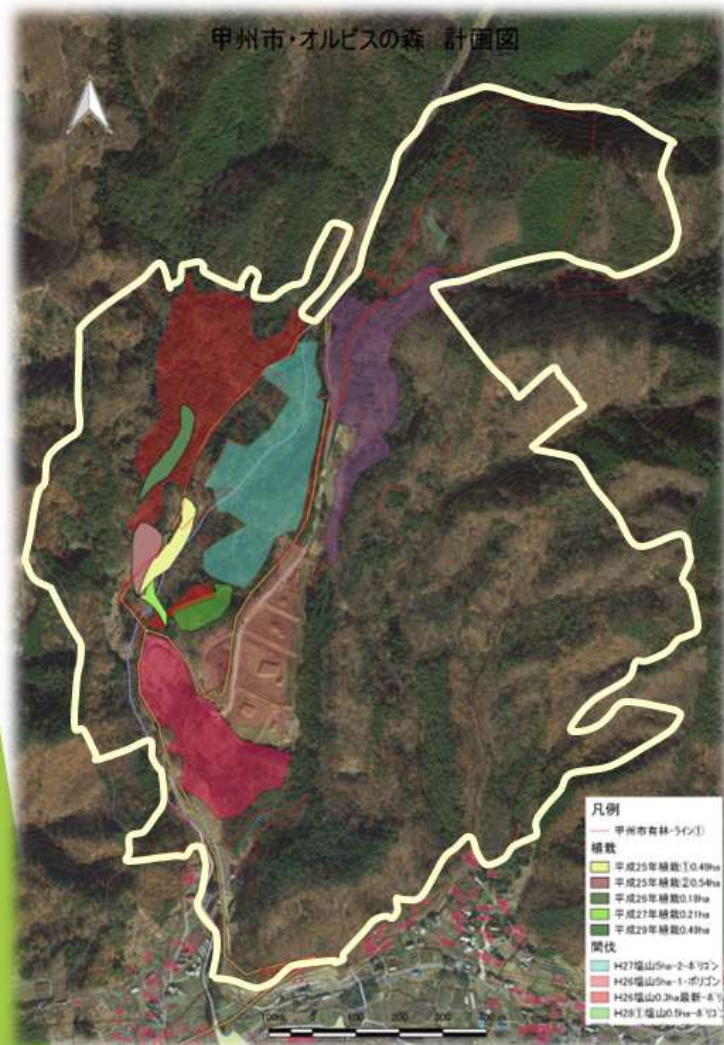
2018年2月の総会で、今まで実施した活動をベースとし、里地里山への思いやオルビスの企業理念などを新たな視点とし、10ヵ年計画の残り4年間の整備計画について、具体的な提案が出されました。

基本的には、この森、全体を、生物多様性の高い天然林と木材利用を重視した人工林を混在させた、人と自然が共生する「モザイク状の森」として整備していくことしました。

そして、「人々が集い自然と親しむ里山として再生すること」を基本理念に＜オルビスの企業理念の体験の場＞として活用できる森の実現を、目標とした計画が提案されました。



## 甲州市・オルビスの森 全体計画図

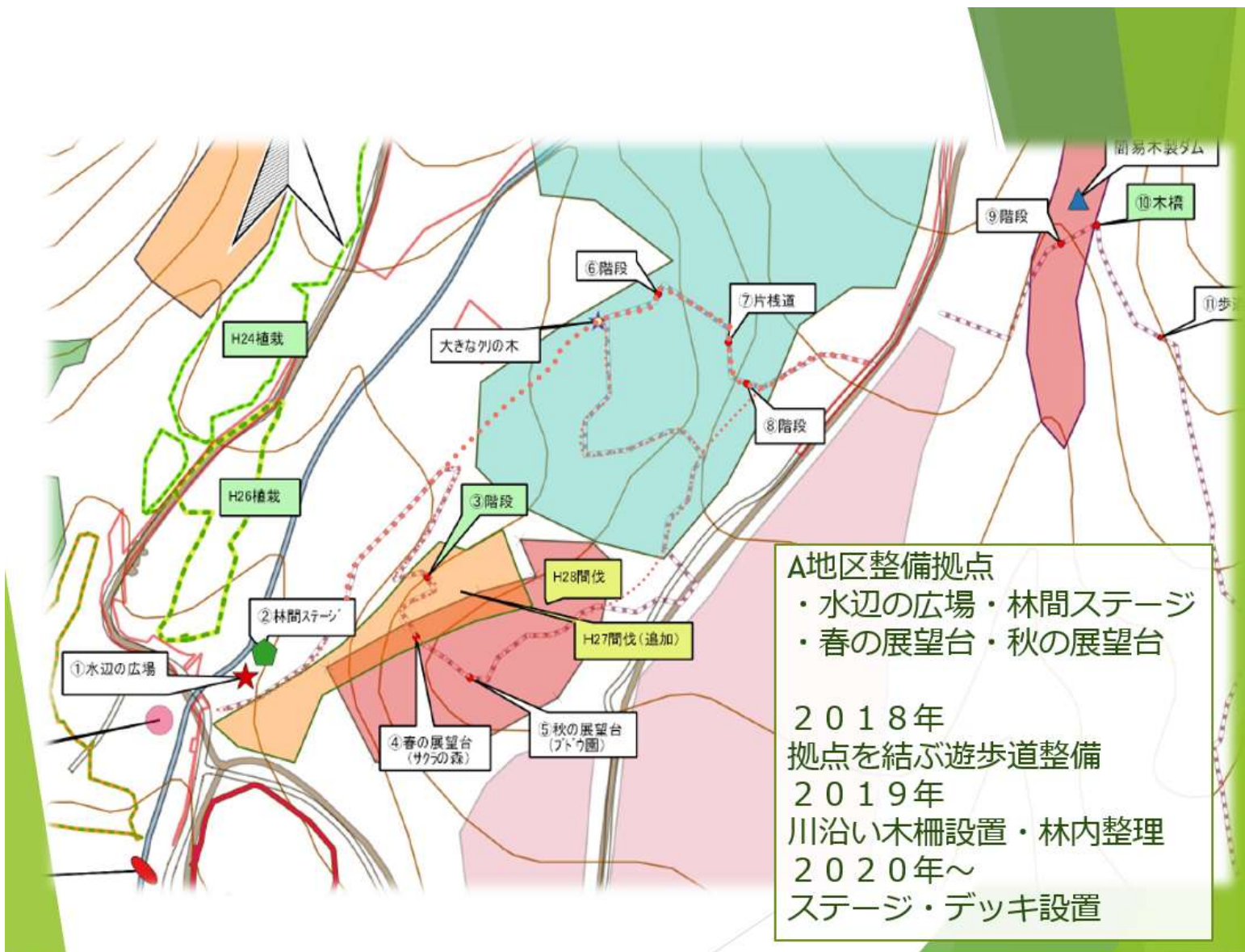


### 【16ページ】

この100haの森を、3つのエリアに設定しました。

林道の左側の主に人工林が多いところを「A地区」、右側の方の雑木林の多いエリアを「B地区」、サクラの森周辺を「C地区」とし、まずは間伐・植栽などの整備が終わった「A地区」を中心に利用できるように計画を立てました。





#### 【17ページ】

10ヵ年計画の残り4年で、人が入れる森にするため、間伐や植栽を行ってきた「A地区」を重点にした整備計画を立てました。水辺の広場、林間ステージ、春の展望台、秋の展望台の拠点整備をしていきます。

水辺の広場とそこの中の林間ステージは、かつて水田だった棚田地形の段差を利用した広場として整備し、生物多様性の体験や水循環の観察、イベントなどの会場として利用します。

ここには、この森で間伐した材を使ってのウッドデッキによるステージを作ります。

春の展望台と秋の展望台にも、同じくウッドデッキを設置し木々の間からサクラの森や、メルシャンのブドウ畑を眺望できるようにします。





2018年 遊歩道整備



キッズプログラム



【18ページ】

昨年の秋、造園協会の協力により、各拠点の整備に先立ち、拠点計画地を結ぶ遊歩道整備に取り掛かりました。間伐した丸太を歩道の両脇に縁石状に並べ作っていました。

11月にはオルビス社員の皆様による活動により、その一部の歩道整備や林内整理などをしていただきました。キッズプログラムでは、ドングリや落ち葉を拾い、パネルにしました。





【19ページ】  
整備された遊歩道の様子です。森の  
雰囲気が一変しました。歩道を進むと  
間伐された人工林や雑木林の様々な  
木々に出会えます。





【20ページ】  
初夏の様子です。川の音を聞きながら、涼しく散策ができます。





【21ページ】

秋の様子です。紅葉と、落ち葉を敷き詰めた歩道を気持ちよく歩けます。秋の展望台からは、今はまだ植えたばかりですが、メルシャンのブドウ畑を見ることができます。





2019年 木柵・手摺り設置



2019年11月 環境活動 階段設置・歩道拡幅

【22ページ】

今年は、川沿いの林間広場の安全対策として木柵を作り、また、ボランティアにより、先月、昨年整備した遊歩道の階段改良、傾斜部分には手摺りの設置、狭い個所の拡幅などを行いました。

人が入れる森として、必要最低限ですが安全対策を行っています。



## 「5つの美しい森」 をキーワードとした整備と活用

多くの人々に来てもらいえるような森を目指し、

「市民憩いの森」

「自然ふれあいの森」

「林業体験の森」

「林業再生の森」

「里地里山の歴史と文化をつなぐ森」

を『モザイク状の森』として配置していく。



- ◆里山に人が入り、森林整備による循環システムの構築
- ◆森林内の拠点整備と移動手段の確保による森林への継続的な関わり
- ◆これらを通じての、全国に発信する森づくり

### 【23ページ】

「甲州市・オルビスの森」の今後の活用にあたっては、多くの人々に来てもらえるような「5つの美しい森」をキーワードとして整備し、「市民憩いの森」「自然ふれあいの森」「林業体験の森」「林業再生の森」「里地・里山の歴史と文化をつなぐ森」の5つの森をモザイク状に配置・整備していくことが里山推進協議会で確認されています。

そのために、里山に人が入り、森林整備を行い循環するシステムを構築していくことを足掛かりとして、森林内の拠点整備と移動手段を確保して、森林に継続的なかわりを持つことができる整備を行い、新しい価値を創造し、この地域から全国に発信する森づくりを行っていきたい、との話が里山推進協議会で議論されました。



## 自然ふれあいの森・市民憩いの森



### 【24ページ】

「自然ふれあいの森」としての活用の例として、隣接する県有林内には、地元甲州市立神金小学校の学校林があり、毎年6月に学校林自然学習会をしていますが、今後は、この森も活動の場として利用してもらいたいと考えています。

さらに、県内外から森林環境教育の場・交流の場としての利用もしていただきたく、必要な情報の調査や整理を行っていく予定です。

「市民憩いの森」として、右上の林間ステージでは、童謡歌手の方がコンサートを、茶道の先生が野点(のだて)を行いたい、などの要望もいただいています。いろんな活動の場として利用いただくよう考えており、ウッドデッキの整備なども計画しています。

また、メルシャンの3haのブドウの圃場では、来年には初収穫の予定です。ここで収穫したブドウで造ったワインの、5年後の販売を目指しており、収穫イベントなどの開催も期待されます。



## 自然ふれあいの森



五感に意識を集中させる



森林安息



ウッドタッチ・ウッドハグ

### 森林浴の目的

#### 森を楽しみながら

- ・心と身体の健康維持
- ・健康増進
- ・病気予防

#### を行うこと

(森林セラピー文献から)

2019年6月 森林浴体験

### 【25ページ】

森の新たな活用を検討していくなかで、新しい動きが出てきました。

今年4月に、隣の山梨市の西沢溪谷などで活動している森林セラピストの方に、この森を紹介し視察・検討してもらった結果、セラピー効果が高く、交通の便も良く、気軽に楽しんでもらえる森なので、活動の場として利用したいとの返事があり、6月には、このセラピストの指導により、オルビス社員、協議会の皆さんと市の女性職員などで、簡単なプログラムによる有意義な森林浴体験を行いました。

この時、オルビスの担当者の方から、興味深い話がありました。オルビスのグループの中の、生産と研究開発を担っている会社の研究者が、研究発表の世界大会で、「美肌(肌状態の良い)人には、ある特定菌を多く持っていて、それが農場や森によくいる菌だということが分かった。」という成果を発表したそうです。その方が、「同じグループであるオルビスが手掛けている森であれば、そこでフィールドワークを実際に行してみたい。」という話もされたそうです。是非、実現して頂きたいと思います。



## 林業体験の森・林業再生の森



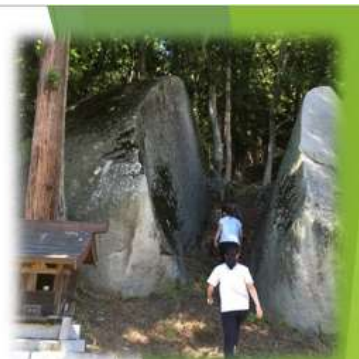
### 【26ページ】

「林業体験の森」としては、これまでも行ってきたような、間伐や植栽などの体験、また、「林業再生の森」としては、間伐材の利用などが考えられます。





重要伝統的建造物群保存地区「上条集落」



地名「裂石」のもと



甲州市交流保養センター  
「大菩薩の湯」

#### 【27ページ】

森の近くの「大菩薩の湯」、また、隣接する上条集落は、2015年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、養蚕が盛んだった江戸時代から昭和にかけて建てられた地域独特の形式を持つ民家や、養蚕に特化した別棟の蚕室が多く残る集落であります。ここは、現在、民放テレビ局で放送中の、日本の原風景を描いたテレビドラマ「やすらぎの刻(とき)～道」のロケ地にもなりました。

「里地・里山の歴史と文化をつなぐ森」としての 展開が期待できるのではないかと思います。



# 令和元年度「ふれあいの森林づくり」 国土緑化推進機構 理事長賞 受賞



甲州市・オルビスの森  
シンボルツリー

## 【28ページ】

これまでの甲州市・オルビスの森の活動認められ、令和元年度「ふれあいの森林づくり」国土緑化推進機構 理事長賞を受賞しました。

「5つの森」での活動は、いろんな視点で「木育」につながるもの、「木育」が森林に返ってくるものであり、改めて、『里地から里山まで繋がる、人々が集い自然と親しむ里山として再生すること』を目指して、整備と活用を進めたいと考えています。